伊勢原 STATION

ー歴史・文化の継承としての駅再考ー

本間　大也

建築設計計画研究室

建築概要

神奈川県伊勢原市桜台 1-1-7
商業地域　防火地域

敷地面積　　28671.467 ㎡
（ロータリーと駅舎含む）

1 階床面積	8401 ㎡
2 階床面積	3936 ㎡
3 階床面積	3334 ㎡
建築面積	8628 ㎡
階数	地上３階
構造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造

主要仕上げ

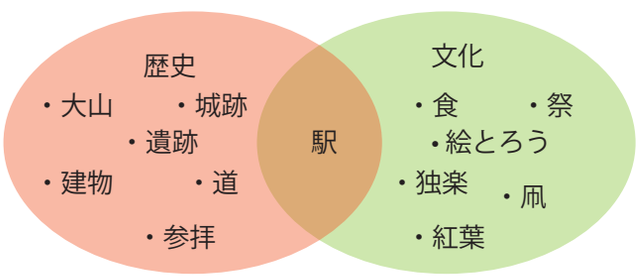
柱	木目仕上げ
外壁	コンクリート
内壁	スギ木材
外部床	ウッドデッキ
内部床	フローリング
屋根	アルミ亜鉛メッキ

program

近年、大山は若者・外国人の方々が増え駅利用者が年間５万人以上大半が小田急を使い伊勢原駅を降りている。大山信仰の為にこの地に訪れ大山を堪能しているが、駅舎自体の耐震強度不足・周辺の商店街の活気が薄れているのが今の大山の観光地の現状だ。このままでは大山の街伊勢原の良さがなくなってしまうと感じ、街の玄関口である小田急伊勢原駅とその駅前広場を見直しが必要と考えた。

建築用途：複合施設
- 店
- ギャラリー
- カフェ
- 待合室
- 交番
- 観光案内所
- 温泉
- レンタサイクル
- 育児待機所
- 改札口
- 駅事務所

diagram00

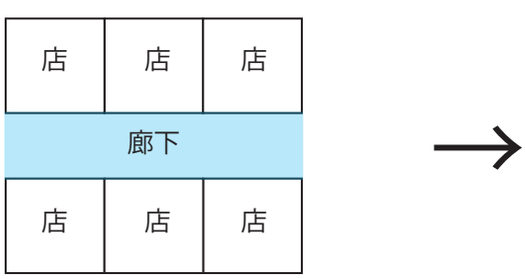


・駅が核にすることにより、今まで知られてない伊勢原の魅力が知られる。

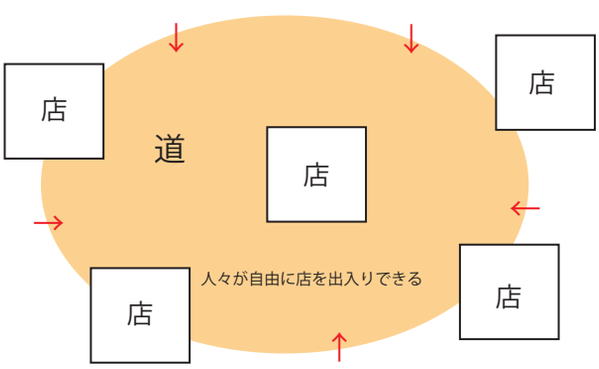
現在の伊勢原駅周辺街並みの様子

・普段の街並みは、人の気配を感じないが、イベント行事があると街が賑わいが発生していることが分かる。

diagram01



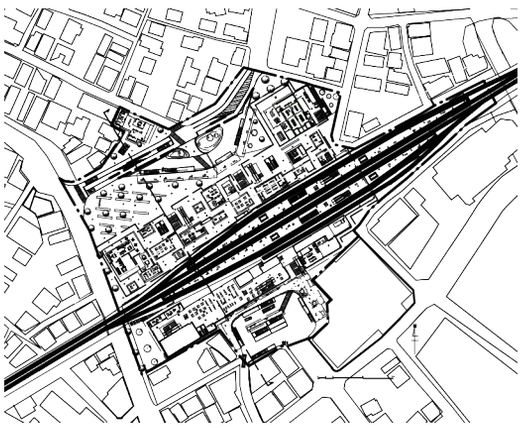
・店と店との間は、密接しておりただの廊下ができてしまう。



・店と店の間を空けることにより道ができ、回遊性が生まれ目的・無目的でも気軽に行きできる。

concept

伊勢原市は江戸時代中期から大山への参道として多くの人たちが行き交う中心の街だった。観光客や市民が活動する上で、この駅でしかできない体験・文化を伝える駅舎を提案する。駅という単なる通過する場所ではなく、観光客の旅の発信源や市民がよりよい生活する上でのできるのではないかと考え今回の卒業設計で小田急伊勢原駅を設計した。

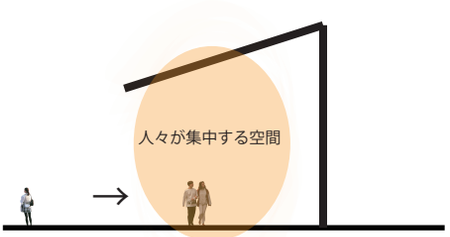


1 階平面兼配置図 1/5000

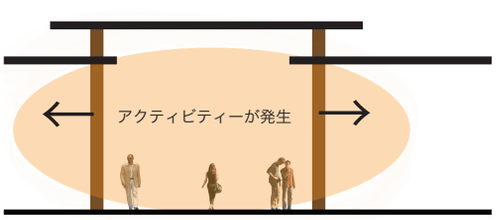
design

大山と駅との関係を考え、屋根同士連続したデザインを考えた。屋根によってできた軒下は人々が集まりやすい空間になっている。店舗と店舗同士は密接するのではなく、視線が抜け回遊性のある空間を作り、内部にいるのではなく外部として店舗と店舗の間が道ができ、無目的でも必ず寄りたくなるような空間ができる。

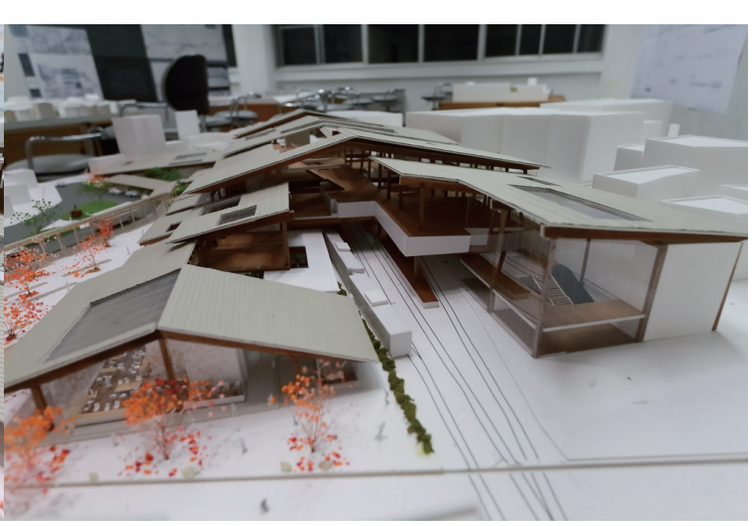
diagram02

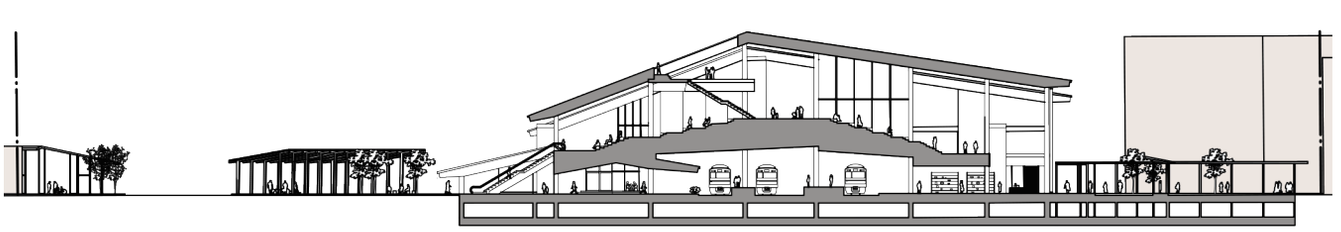


・軒下によって生まれる空間は、人々が集まりやすい暖かい空間になっている。



・屋根によって構成された空間は、重ねることにより多くの観光客や市民コミュニケーションが取れる考え設計した。





断面図　1/1000